

《アライグマに注意!》

なごや生物多様性センター

北アメリカからペットとしてやってきたアライグマ。名古屋市内でも野生化し、近年、家屋への侵入や農作物への被害が報告されています。

【被害を防ぐために】

- ① エサとなる物を放置しない。
- ② 家屋への侵入を防ぎ、入らせない。
- ③ 見かけても触れない。

*アライグマを目撃したら、なごや生物多様性センターまで情報をお寄せ下さい。 ☎ 831-8104

《浸水被害時のお願い》

千種区保健センター

浸水被害発生の際、感染症予防計画に基づき、防災対策を実施します。地域で必要な消毒薬の量を把握する為、浸水被害世帯の情報収集をお願いします。被害に遭われた時は、自治会長又は、保健環境委員会の方に、お伝え下さい。

・ 窓口 保健センター保健管理課 ☎ 75311951

*床上浸水（希望する被災家屋等に配布）

逆性石鹼液 500ml 又はクレゾール石鹼液 500ml

*床下浸水（希望する被災家屋等に配布）

逆性石鹼液 500ml 又はクレゾール石鹼液 100ml

薬剤と合わせ、使い方も配布します。

【注意】・薬剤を小分けして配布はしません。

・ 乳幼児の手の届かない場所で食品と別に保管。

・ 直接触らない（皮膚についた時は、水で十分洗い流す）

「日本の世帯数の将来推計」の公表

（国立社会保障・人口問題研究所）

二〇一九年推計の日本の世帯数の将来推計が公表されました。
【推計結果ポイント】は左記の通りです。

一、世帯数は、2035年までに46都道府県で減少を開始

世帯数が減少する都道府県は今後次第に増え、2035年までには、沖縄県を除く45都道府県で世帯数が減少する。

二、平均世帯人員は、すべての都道府県で減少

平均世帯人員は、2015年から2040年には、すべての都道府県で減少する。2015年に平均世帯人員が1.99人となった東京都に続き2040年までに北海道や高知県で平均世帯数人員が2.0を下回る。

三、2025年には、全ての都道府県で単独世帯が最多に

2015年に41都道府県で最大の割合を占めていた単独世帯は、2025年には全ての都道府県で最大の割合を占めるようになる。

四、65歳以上の世帯主の割合は、2040年には45都道府県で40%以上に
報告内容が多い為、割愛します

五、世帯主65歳以上の世帯における単独世帯の割合は、2040年には全都道府県で30%以上に
報告内容が多い為、割愛します

報告内容が多い為、割愛します

*2033年には、全国の住戸3戸に1戸が空き家になり、

2040年には、全自治体の約半数が消滅する恐れがあり、

50年後には、現役世代が一人が高齢者一人を支える時代が来ると言われています。少子高齢化が大きな課題となります。